

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成25年7月4日(2013.7.4)

【公開番号】特開2012-8212(P2012-8212A)

【公開日】平成24年1月12日(2012.1.12)

【年通号数】公開・登録公報2012-002

【出願番号】特願2010-141827(P2010-141827)

【国際特許分類】

G 02 B 7/34 (2006.01)

G 03 B 13/36 (2006.01)

H 04 N 5/232 (2006.01)

H 04 N 101/00 (2006.01)

【F I】

G 02 B 7/11 C

G 03 B 3/00 A

H 04 N 5/232 H

H 04 N 101:00

【手続補正書】

【提出日】平成25年5月17日(2013.5.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正4】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被写体像を形成する結像光学系と、

前記被写体像を光電変換する複数の画素を含む撮像素子と、

前記結像光学系の異なる瞳領域を通過した光束をそれぞれ受光する複数の焦点検出用画素から得られる複数の焦点検出用信号の位相差に基づいて、デフォーカス量を算出するデフォーカス量算出部と、

前記デフォーカス量算出部において算出された前記デフォーカス量に応じて合焦状態となるように前記結像光学系を駆動するフォーカス部と、

前記被写体像の信号成分の解析結果に基づき、前記デフォーカス量を算出する前に、前記複数の焦点検出用信号に対するフレーム間加算の実施の可否を判定する加算可否決定部と、

前記加算可否決定部の判定結果に基づいてフレーム間加算を行うフレーム間加算処理部と、

を有することを特徴とする撮像装置。

【請求項 2】

前記加算可否決定部は、前記解析結果と、1又は複数の閾値と、を比較した比較結果に基づき、前記複数の焦点検出用信号に対するフレーム間加算の実施の可否、及び、前記複数の焦点検出用信号に対してフレーム間加算を実施する際の加算フレーム数をそれぞれ決定することを特徴とする請求項1に記載の撮像装置。

【請求項 3】

前記複数の焦点検出用画素は、前記撮像素子に含まれることを特徴とする請求項1に記載の撮像装置。

【請求項 4】

前記焦点検出画素は、前記撮像素子とは別に設けられたセンサに含まれる画素であることを特徴とする請求項1に記載の撮像装置。